

## 【奈良県】 県内で初 大淀で稼働 吉野の間伐材活用

毎日新聞 2015年12月24日 奈良版



完成したクリーンエネルギー奈良の吉野発電所＝奈良県大淀町馬佐で

これまで処分されていた間伐材などを燃料にする「クリーンエネルギー奈良・吉野発電所」が大淀町馬佐に完成し、22日から売電用の運転を始めた。木材由来の資源「木質バイオマス」による発電所は県内で初めてという。間伐材の活用による森林保全なども目指す事業だ。【栗栖健】

クリーンエネルギー奈良（伊藤孝助社長）は、産廃処理・木材チップ製造会社「I・T・O」（奈良市）と森林組合などが出資して2013年に設立。総事業費約38億円を掛け、発電所の建設を進めていた。

同社によると、発電所は出力6500キロワットで、大淀、吉野両町の世帯数より多い約1万2000世帯分を供給できる。燃料は間伐材などの未利用木材が50%を占め、製材する際に出る端材やダム流木なども使う。建設廃棄物は受け付けない。木材はチップにして燃やし、蒸気タービンを回して発電する。月6000トンのチップを使用する。

電力は日常的に売電し、地震など災害時に用いる電気自動車の充電装置も設置する。従業員15人は新規に雇用した。

吉野地域は全国有数の林業地だが、木材価格の低迷で間伐されない植林地が増え、森林の荒廃が懸念されている。伊藤社長は「間伐材などを発電所が購入することで、森林の手入れが進み、水源涵養（かんよう）、山地保全などの波及効果も期待される。燃料の安定供給のためにも林道の整備が課題だ」と話している。